

被災港湾の復旧「第1号」！ 八戸港災害復旧事業完了式を開催しました

八戸港湾・空港整備事務所

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた八戸港の災害復旧事業が全て完了したことを記念し、平成25年8月10日（日）に八戸港貿易センタービルにて「八戸港災害復旧事業完了式」を開催しました。完了式は、国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所と青森県、八戸市の共催で開催され、本式典をもって八戸港の災害復旧事業が全て完了となりました。



▲式典会場内の様子

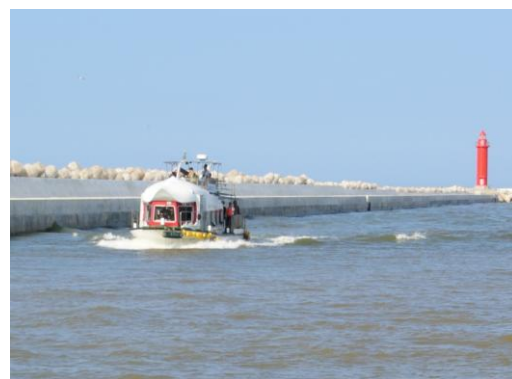
式典には、関係者約110人が出席し、はじめに東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈り黙祷をささげました。続いて東北地方整備局の中野則夫副局長が挨拶し「八戸港が早期に復旧できたのは関係者の理解と協力のおかげ」と述べました。引き続き、大島衆議院議員、山崎参議院議員、滝沢参議院議員、福島八戸商工会議所会頭から祝辞を、また、港湾関係者を代表し、大矢卓八戸港湾振興協会会長より「八戸港は被災港の中でもいち早く港湾機能が回復し、被災地東北の経済振興に大きな役割を果たすことができました。関係各位にお礼を申し上げる」と謝辞をいただきました。

式典終了後、八戸港振興協会の主催による港見学会が開催され、船上から復旧した八戸港を視察しました。

東日本大震災で八戸港は、全長約3500mの八太郎北防波堤のおよそ40%が倒壊したり、護岸が壊れるなどの被害がありました。震災から約2年4ヶ月を経て、被災港湾で初めての完全復旧を果たしました。



▲中野副局長の挨拶



▲シャーク号から復旧した八太郎北防波堤を視察

